

授業科目 解剖学Ⅱ

【担当教員名】 鈴木 了、○山田まりえ	対象学年	1	対象学科	言語
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15

<一般目標：G I O>

発声発語器官である口腔・鼻腔・咽頭・喉頭について、及び聴覚器官である外耳・中耳・内耳についてそれぞれの構造と機能を理解する。さらに言語と聴覚に関する中枢神経系と末梢神経系を理解する。また、頭蓋・顔面部の発生の概略を理解し、口腔・顎顔面部の先天異常の発生を考察する。

<行動目標：S B O>

1. 口腔・鼻腔・咽頭・喉頭を構成する各部位の名称と機能を説明できる。
2. 喉頭内在筋について概説し、それぞれの機能を説明できる。
3. 外耳・中耳・内耳の構造と機能を説明できる。
4. 聴覚におけるコルチ器の構造と機能を理解し、説明できる。
5. 摂食・嚥下について解剖学的に説明できる。
6. 口腔・顎顔面部の発生の概略を理解し、説明できる。
7. 中枢神経系、末梢神経系の構成を概説できる。
8. 中枢神経系を区分し、各々の機能を説明できる。
9. 脳神経の番号、名称、主たる働きを概説できる。
10. 交感神経系、副交感神経系について構造と機能を概説できる。
11. 聴覚伝導路をコルチ器から大脳皮質まで順にたどることができる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	発生発語器官 口腔、鼻腔、咽頭、喉頭	1, 2 5	講義
2	平衡聴覚器 1 外耳と中耳	3	講義
3	平衡聴覚器 2 内耳	4	講義
4	ヒトの発生 頭頸部、顎顔面部の発生	6	講義
5	神経系 1 末梢神経系	7, 9 10	講義
6	神経系 2 中枢神経系	7 8	講義
7	神経系 3 知覚の伝導路	11	講義

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	入門人体解剖学	藤田恒夫	南江堂	2000年 5000円
参考書				
その他の資料	プリントの配布			

【評価方法】 出席状況・態度、筆記試験の総合評価	【履修上の留意点】 言語聴覚士のための専門分野の解剖学です。少ない回数でかなり深くなりますのでしっかり勉強してください。
-----------------------------	-----------------------------------------------------------------